

# プロジェクト進捗管理シート

## 方針1 「貢献」と「自立」の経済構造への転換

# 2 農山村産業クラスター形成プロジェクト

～観光と農林業を基礎とした農山村産業クラスターの形成～

総括マネージャー

観光部長

### 目 標

山岳や高原、美しい景観、伝統・文化などの長野県の強みを活かし、世界水準の山岳高原観光地の形成や日常の暮らしを楽しむことができる観光地域づくり、6次産業化など付加価値の高い農林業の創出により、農山村に県民の暮らしを支える産業の集積をめざします。

### 総 合 分 析

観光と農林業を基礎とした農山村産業クラスターの形成をめざし、3つのアクションによりプロジェクトを推進しました。

達成目標4項目のうち2項目は「順調」、1項目は「努力を要する」、1項目は「実績値なし」となっています。

- 「観光消費額」：平成26年は、消費税増税や御嶽山の噴火などでの影響で落ち込んだが、7年に1度の善光寺御開帳などが開催されたこともあり、順調に推移している。
- 「外国人宿泊者数」：国や近隣の県などと連携しながら誘客活動に取り組むなど、観光庁の調査によれば、順調に推移している。
- 「農業農村総生産額」：主力である野菜が需要に応じた適正生産の取組を進めたことなどにより、価格が好調であったこと、また、りんご、ぶどうなどの果樹も県のオリジナル品種への改植が進み生産量は減少したものの価格が好調だったことに加え、平成26年度に大幅に下落した米価が回復したことなどにより、平成25年から3年連続で3,000億円を超えた。
- 「素材生産量」：「信州F・POWERプロジェクト」におけるサプライチェーンセンターの設置や製材施設整備等への支援などにより、増加している。

これらのことから、プロジェクト全体の取組は着実に進んでいるものと考えられます。

### ～プロジェクト推進に向けての課題と今後の方向性～

長野県の元気創出に向け、観光と農林業を基礎に、農山村の暮らしを支える産業の活性化を図ります。

観光については、世界水準の山岳観光地づくりを推進するため、雄大な自然を活かしたスポーツやアクティビティなどアウトドア観光を安全・安心に楽しめる環境づくりを進めます。海外に対しても、長野県の強みである「山、アウトドア、健康長寿」をテーマに積極的なPR展開していきます。また、(一社)信州・長野県観光協会を単なる誘客・宣伝組織から、長野県観光の中核となる民間組織として、観光地域経営を担う舵取り役として、(一社)長野県観光機構としてDMO化します。

また、農業所得向上を目指し、収益性の高い農業を展開していくため、新品種・新技術の開発・普及とともに、稲作農家の規模拡大や生産コストの削減、付加価値の高い農産物の生産、革新的農業技術の開発などを推進するほか、「長寿世界一NAGANOの食」として、県産農産物・加工食品(6次産業化産品)の輸出拡大を支援します。

さらに、産学官が連携して、木材加工施設、木質バイオマス発電施設、熱利用施設の整備に取り組むことにより、新たな林業の創生と再生可能エネルギーの利用を推進します。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○順調:目安値以上 ○概ね順調:80%以上100%未満の進捗  
○努力を要する:80%未満の進捗 ○実績値なし:今年度実績値が把握できない  
・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値)

指標名	暦年	単位	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)		
観光消費額	目安値	億円		3,140	3,179	<b>3,219</b>	3,259	3,300		
	実績値		3,103	3,148	2,974	<b>3,302</b>				
	進捗区分			順調	努力を要する	順調				
	進捗状況の分析	「山岳高原」という長野県の最大の強みを活かした世界水準の観光地づくりに取り組んできました。4月から5月まで善光寺御開帳が開催されたこともあり、順調に推移しています。								
【目標設定理由】 H24年実績見込みから5%増加を目標に設定	今後の取組	・長野県の強みである「山・アウトドア・健康長寿」を最大限に活かす取組を推進 ・大河ドラマの放映や大規模イベント等を最大限活用した全国からの誘客の促進と滞在の拡大								
【関連アクション】 アクション1, 2										
指標名	暦年	単位	基準値(H22)	H25	H26	H27	H28	目標(H29)		
農業農村総生産額	目安値	億円		2,968	2,996	<b>3,015</b>	3,033	3,050		
	実績値		2,908	3,031	3,019	<b>3,116</b>				
	進捗区分			順調	順調	順調				
	※実績値は下表のA+B									
	【関連データ】 (単位:億円)									
	指標名				H25	H26	H27			
	A 農産物産出額 (栽培きのこ類含む。)				2,832	2,818	<b>2,914</b>	出典:生産農業所得統計(H27は県農政部推計) (栽培きのこ類は生産林業所得統計)		
B 農業関連産出額				199	201	<b>202</b>	出典:県農政部推計			
※農業農村総生産額＝ 農産物産出額＋農業関連産出額										
進捗状況の分析	主力である野菜が需要に応じた適正生産の取組を進めたことなどにより、価格が好調であったこと、また、りんご、ぶどうなどの果樹も県のオリジナル品種への改植が進み、生産量は減少したものの価格が好調であったことに加え、平成26年度に大幅に下落した米価が回復したことなどにより、平成25年から3年連続で3,000億円を超えた。									
【目標設定理由】 品目ごとの過去の増減率と今後の生産振興方針等をもとに設定	今後の取組	・農業所得の向上を図るため、稲作農家の規模拡大や生産コストの削減、付加価値の高い農産物の生産、革新的農業技術の開発 ・6次産業化の推進や信州ワインバレー構想の具現化 ・「長寿世界一NAGANOの食」として、県産農産物・加工食品(6次産業化産品)の輸出拡大を支援								
【関連アクション】 アクション3										

指標名	暦年	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)	
外国人宿泊者数	目安値	万人		32.8	37.1	<b>41.4</b>	45.7	50.0	
	実績値		20.3	36.1	46.5	-			
	進捗区分			順調	順調	実績値なし			
	【関連データ】 (単位:万人)								
	指標名				H25	H26	H27		
	延べ宿泊者数(外国人)				54	66	<b>95</b>	出典: 宿泊旅行統計調査(観光庁)	
	進捗状況の 分析	県による統計は平成27年度から実施しないこととなったため実績値はありませんが、観光庁の宿泊旅行統計調査によると、中国からの旅行者が増加したことに加え、立山黒部アルペンルートも台湾、香港からの多くの旅行者が訪れているため、外国人延宿泊者数は、順調に推移しています。							
【目標設定理由】 倍増を基本に中国をはじめとする最重要市場からの宿泊者の増加を見込み設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアや成長著しい東南アジア等の市場を主なターゲットに、各市場の特性に応じた効果的な誘客活動を強化</li> <li>ネイティブの情報発信員により、Webサイト等を通じた外国人の目線に立った情報の発信</li> <li>県内観光事業者と一体となった海外プロモーションの展開</li> </ul>							
【関連アクション】 アクション1, 2									
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)	
素材生産量	目安値	千m <sup>3</sup>		330	420	<b>600</b>	605	610	
	実績値		329	437	437	<b>501</b>			
	進捗区分			順調	順調	努力を要する			
	進捗状況の 分析	予定していた信州F・POWERプロジェクトの木質バイオマス発電所の稼働が3年遅れることになったことにより、実績値が目安値に届かず、「努力を要する」という結果になりました。							
【目標設定理由】 民有林の間伐面積等の伸び率や国有林伐採計画量から決定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>原木の安定供給体制の構築</li> <li>林業経営基盤の整備</li> <li>様々な用途への県産材利用を一層進める</li> </ul>							
【関連アクション】 アクション3									

アクション  
1

(世界水準の山岳高原観光地づくり)

日本一の山岳環境や美しく豊かな農村景観を活かし、世界水準の山岳高原観光地づくりを進めます。

【アクションの進捗状況】

山岳高原観光地づくりについては、「山岳高原」という長野県の大きな強みを最大限に活かせるアウトドア観光の基盤づくりを行いました。日本を代表する山岳県として登山の安全対策を総合的に推進するため、長野県登山安全条例を制定しました。昨年度作成した「信州 山のグレーディング」は、本県の基準をベースに近隣県に広がりました。

信州・長野県観光協会を単なる誘客・宣伝組織から、長野県観光の中核となる民間組織として、観光地域経営を担う舵取り役として、県DMO化に向けた取り組みを行いました。

主な成果

●山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくりを推進

○アウトドア観光の推進

「山岳高原」という長野県の大きな強みを最大限に活かせるアウトドア観光について、長野県観光の一つの柱として発信するための体制を整備

- ・県内アウトドア関係事業者のネットワーク組織  
(一社)長野県アウトドア推進協議会 設立
- ・アウトドア観光の発信

○重点支援3地域への支援

- ・日本一の山岳環境や美しく豊かな農村景観を活かした世界水準の山岳高原観光地づくりを進めるため、有識者の派遣や観光部内の支援チームにより重点支援地域を総合的に支援

重点支援3地域

- ◎信越9市町村  
(飯山市、中野市、山ノ内町、信濃町、飯綱町、木島平村、野沢温泉村、栄村、妙高市)
- ◎北アルプス3市村  
(大町市、白馬村、小谷村)
- ◎木曾町、王滝村

●登山の安全対策を推進

○全国初となる登山の総合条例として「長野県登山安全条例」を制定(H27年12月)

- ・日本を代表する山岳県として相応しい登山の安全対策を総合的に推進するため、県や山岳関係者の責務や役割、安全な登山のための啓発活動、活火山における登山者の安全確保、登山計画書の提出など盛り込む

○全国初となる山の格付け「信州 山のグレーディング」が全国へ拡大

- ・長野県の基準をベースに、新潟県、山梨県、静岡県、岐阜県、群馬県においても登山ルートグレーディング
- ・「信州 山のグレーディング ピッチマップ」を作成・公表



信州 山のグレーディング

○全国に先駆けて本格的な登山道の整備を開始(H27年4月)

- ・5山域の山岳関係者、行政、観光協会等による協議・検討により山域の将来像を策定
- ・緊急点検に基づく300の危険箇所のうち、35箇所を計画的に解消
- ・市町村・山小屋関係者など各関係者が役割を踏まえた協働による管理を順次スタート
- ・登山道を整備する市町村等が加入する損害賠償保険加入への補助制度を創設  
(保険料の1/2を補助)

○「山岳の環境保全及び適正利用の方針」を策定(H28年3月)

- ・登山道の整備及び維持管理と、山岳の適正利用に関する統一ルールを「長野県山岳環境連絡会」にて策定(構成メンバー:行政機関(国、県、市町村) 山岳関係者、有識者)

## ●自然公園の魅力を県内外に発信

- ・山の日関連企画として「妙高戸隠連山国立公園誕生記念切手」を発行(H27年7月15日)
- ・「県立自然公園の伝える伝わる魅力フォト」を募集し、県内外から360点の応募があった。うち20作品をオリジナルフレーム切手に採用



中央アルプスと千畳敷カール

## ●県DMOを構築

信州・長野県観光協会を単なる誘客・宣伝組織から、長野県観光の中核となる民間組織、また観光地域経営を担う舵取り役として、DMOを構築し、活動の充実を強化

- ・(一社)信州・長野県観光協会 観光庁がDMO候補法人として登録(H28年2月)

### アクション 2

#### (県民参加型観光地域づくり)

来訪者が長野県の日常の暮らしを楽しむことができるよう、県民参加による観光地域づくりを進めます。

#### 【アクションの進捗状況】

観光地域づくりを牽引していく地域の中核となりうる人材に対し、集中的かつ実践的な育成プログラムを展開する「信州・観光地域づくりマネジメント塾」を開催し、第2期生(1期2年)が修了しました。

また、相手の気持ちになって行う「おもてなし」を観光関係者だけでなく、地域や職場、家庭など県民総参加で行い、観光旅行者の満足度向上と地域活性化を図る「ずく出し!知恵出し!おもてなしプロジェクト」を推進し、おもてなし宣言の登録件数は、3千件を超えました。

さらに、若手芸術家と観光地・公共的施設等での発表の場のマッチングを行い、33組の芸術家の発表の場を創出しました。

#### 主な成果

### ●「ずく出し!知恵出し!おもてなし」プロジェクトを推進 ～2020年おもてなし日本一を目指して～

- ・「ずく出し!知恵出し!おもてなし」宣言の募集  
登録件数(H28年3月31日現在) : 3,123件(人数:56,363人)
- ・信州おもてなし未来塾の開催(第I期・第II期)  
地域や業界でおもてなし向上の牽引役となるリーダーを育成  
修了生:75名 年7回開催  
おもてなしマイスター認定:49名
- ・信州まごころトイレプロジェクトの実施  
※洋式化やバリアフリー化など一定の基準を満たし、きれいなトイレを維持していく  
取組が行われている観光地の公衆トイレを「信州まごころトイレ」として認定  
「信州まごころトイレ認定」 7か所 ⇒ 54か所



長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ

## ●若手芸術家の活動を支援

- ・観光地・公共的施設等でのアーティストの発表の場の創出
- ・マッチング数:H27年度 目標20組 ⇒ 実績 33組



若手芸術家による演奏会

アクション  
3

(農林業の高付加価値化)

農山村の暮らしを支える農林業の基盤を強化するとともに、6次産業化の推進やエネルギー施策などとの複合的な施策推進により、農林業の高付加価値化を進めます。

【アクションの進捗状況】

農業については、農業所得向上のため、稲作農家の経営規模拡大や県オリジナル品種の生産拡大などを支援するとともに、6次産業化の促進や「信州ワインバレー構想」を具現化するための取組を重点的に実施し、高付加価値化を進めました。

林業については、信州F・POWERプロジェクトで整備する施設に原木を安定供給するため、サプライチェーンセンターを構築し木材の需給調整を展開するとともに、発電用低質材の安定供給体制の構築等などについて検討しました。

また、これからの長野県の林業において、中核的な役割を果たすことが期待される「信州フォレストコンダクター」の育成を進めました。

主な成果

● 農業所得向上の支援策を実施

農業所得の向上を図るため、稲作農家の経営規模の拡大や生産コストの削減、県オリジナル品種の生産拡大、革新的農業技術の開発などを戦略的に支援

- ・ 主食用米のみに依存しない収益性の高い効率的な経営体を拡大  
H27年度：目標 590件 ⇒ 実績 594件
- ・ 消費者ニーズの高いナガノパープルなど、県オリジナル品種の戦略的拡大  
H27年度：目標 1,812ha ⇒ 実績 1,949ha
- ・ 農業分野の課題を把握し、工業分野のテクノロジーとのマッチングにより、新たな技術を開発  
H27年度：目標 3課題 ⇒ 実績 3課題



ナガノパープル



信州大学、農業機械メーカー等との連携によるレタス収穫機の開発

● 農業の6次産業化を促進 ～認定件数は全国3位～

「信州6次産業化推進協議会」を中心に、研修会の開催やプランナーの派遣等により6次産業化を支援

- ・ 六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定件数  
H27年度：目標 94件 ⇒ 実績 91件 (全国3位)



りんごのテスト販売  
(シンガポールショッピングモール内)

● 県産農産物等の輸出を拡大

県産農産物等を「長寿世界一NAGANOの食」として海外への売り込みを促進

- ・ りんご輸出額 H27年度：目標：3,600万円 ⇒ 実績3,750万円
- ・ 米輸出額 H27年度：目標：3,500万円 ⇒ 実績3,870万円

## ●ワイン生産アカデミーを開催

長野県産ワインのブランド化とワイン産業の発展のため、H25年度から「ワイン生産アカデミー」を開催し、ワイン用ぶどうの生産やワイナリーの起業を支援

区分	目標	実績	受講者の主な動向(H28.1.27現在)
H25受講者	30名	43名	・ワイナリー設立3名(H29目標:5名) ・ぶどう栽培開始8名 ・醸造研修受講1名
H26受講者	30名	41名	・ぶどう栽培開始9名 ・醸造研修受講5名
H27受講者	30名	40名	・ぶどう栽培開始1名 ・醸造研修受講1名

※栽培開始と醸造研修受講は重複あり。



研修の様子

新規開業支援によりワイナリーが急増 H25 : 25件 → H27 : 32件 (全国第2位)

## ●サプライチェーンセンターによる原木の安定供給体制を構築

### ～信州F・POWERプロジェクトの展開～

- ・H26年10月に事業主体の征矢野建材(株)とサプライチェーンセンターにおいて製材用素材(原木)の安定供給に係る協定を締結し、製材用原木の安定的な需給調整を展開  
⇒入荷量:約3万7千m<sup>3</sup>(H28年3月末時点)



製材用原木の状況

- ・H27年8月に、発電用木材の安定供給に係る意向書を締結し、今後、木質バイオマス発電施設の稼働を見据えた、低質材の安定供給体制を構築



サプライチェーンセンター全景

※サプライチェーンセンター

長野県木材協同組合連合会、長野県森林組合連合会、長野県納材協同組合、木曾官材市売協同組合の4団体で構成する素材(原木)の流通組織

## ●信州フォレストコンダクターを育成

### ～森林県から林業県への飛躍を目指して～

- ・フォレストコンダクター登録者数  
H27年度目標 : 11名 ⇒ 実績 : 11名 (H25年度からの累計30名)  
(フォレストコンダクター : 森林管理から木材の出荷・利用にわたり、経営感覚を持ちながら各地域の林業を指揮できる人材)
- ・各地域におけるH27年度のフォレストコンダクターの活動実績
  - ▶関係者による連携会議を通じて、チップ等の木質バイオマスの安定供給とチップボイラーの導入等を促進
  - ▶合板、木質バイオマス、海外輸出等の多方面に対し、地域の林業事業体の連携により木材の販路拡大と安定供給を実現



フォレストコンダクター集合研修